特集

明治150年記念・伝えるべき日本の夜明けのストーリー。「鳥羽伏見の戦いの最終決着地」楠葉台場を君は見たか？

嶋田 研志郎

平成30年は、明治維新から150年という節目の年。今から、150年前、蒸気機関を開発し、産業革命を経た欧米国家はその絶大なる軍事力、経済力を以って、南米、アフリカ、アジアを植民地化し、世界地図を欧米の国旗で埋め尽くしていった。その手はいよいよ、極東の島国にまで及ぶにいたった。

極東の島国、日本は260年に

も及ぶ太平の江戸時代の間、成熟した文化と識字率の高い国民を育んできた。しかし、世界の流れが日本だけを特別扱いするわけはなく、独立か欧米国家の植民地の二択を迫られる事態に陥った。

そうして、国論が真っ二つになる。幕府方である東軍と後の新政府を立ち上げる西軍である。ただ、どちらも日本の「独立」を保つために、志を立て、誠を尽くした国士たちであった。

東軍と西軍の争いは、今日において「戊辰戦争」と伝えられている。しかし、実際に大勢を決めた戦いは、京都から大阪に下る京街道沿いに繰り広げられた、鳥羽伏見の戦いであった。城南宮付近で1月3日に勃発した戦いは、一般庶民を巻き込む戦いに迷いがない西軍に追われ、東軍が大阪側へと退却していく。1月6日、男山の東西に位置する、八幡と橋本に陣を構え、淀川を挟んだ、楠葉台場と高浜台場を本丸とした最終防衛ラインを築き、東軍は西軍を迎え撃つ。

火力は五分五分か、多少東軍に利があったと伝えられるが、戦術・戦略において、西軍が有利に立ち、最終防衛ラインは天王山となりの高浜砲台が西軍つき、橋本の町に大砲を打ち始めたことで決着がついた。

悲しいかな、楠葉台場は淀川をさかのぼる敵を想定した作りになっており、御所のある京都方面の敵を迎撃する作りにはなっていなかったのだ。

鳥羽伏見の戦いは橋本・楠葉の最終決戦で終了し、慶喜公は大阪城から江戸へ船で撤退し、薩摩・長州はいよいよ新政府としての動きを京都にて活発化していった。

しかし、150年の時間を経て振り返ってみれば、楠葉台場が京都に向かって大砲を放つ作りでなかったことが、日本の独立にとってはよかったのかもしれない。

当時の東軍はフランスから、一方の西軍はイギリスから武器購入や軍事教育を受けていた。当時のイギリスとフランスは世界で1、2を争う覇権国同士であり、植民地を奪い合う際、植民地内での内戦に加担していった。今でもその爪痕はアフリカの民族紛争にも残っている。

歴史に「もし」がないことを承知で述べるが、もし、楠葉台場が京都から攻め下る西軍を迎え撃つことができ、鳥羽伏見の戦いが泥沼に陥っていたならば、イギリスやフランスが国内政治に介入する隙をあたえ、明治以降の日本の近代化は植民地化であったかもしれない。

そう考えると、楠葉台場は今日、跡地のみが伝えられるが、明治以降の歴史を決定づけた場所でもある。

京都競馬場の旧駐車場跡地、競馬関係者により建てられたといわれる「戊辰役東軍西軍激戦之地碑」に刻まれた碑文こそ、時代に翻弄され、志を立て誠を尽くした国士たちに贈る言葉にふさわしいと感じた故、その言葉を下記に引用して、特集を締めくくりたい。

「幕末の戦闘ほど世に悲しい出来事はない　それが日本人同族の争でもあり　いづれもが正しいと信じるまゝにそれぞれの道へと己等の誠を尽した　然るに流れ行く一瞬の時差により或る者は官軍となり　或るは幕軍となって　士道に殉じたので有ります　こゝに百年の歳月を閉じ　其の縁り有る　此の地に不幸賊名に斃れたる　誇り有る人々に対し　慰霊碑の建つるを見る　在天の魂以て冥すべし

中村勝五郎識す　昭和四十五年春」

青年部ピックアップ企画 No.3

今回は、5月2日に当プロジェクトが行った「伏見市長との懇話会」についてのレポートです！青年部メンバーの中でも最年少の高校一年生で参加した、石黒蓮くんに感想を書いてもらいました！

伏見市長との懇話会の中で、枚方市の教育改革、保育園の増設、枚方市駅周辺の改造などの色々なお話がありましたが、そのお話の中で自分が最も考えた話は自分が現高校生ということもあり、枚方市の学力向上についての考えについてでした。

枚方市は、「枚方市内の中学校・高校で行われている定期試験の平均点を枚方市が定めた平均とどれくらい幅があるかを学校に通告しようと考えている」と話されたのを聞いて、「自分が通っている学校がどれくらいのレベルなのか。その結果なら今自分が行っている勉強の仕方は合っているのか」など自分自身で考えられるのですごく興味が湧きました。

▲市長の話を熱心に聞く石黒君(真中)

枚方市駅周辺の改造のお話では、日頃スターダスト河内として舞台で出演させていただいている枚方市民会館が移動するという話には驚きを隠せませんでした。場所が、関西医科大学とラポール枚方との間に建設するということなので「もっとたくさんの方々に来ていただけるな」と感じ、とても嬉しかったです。

また、伏見市長との懇話会の機会があれば是非とも参加して貴重なお話を伺いたいです。

東海大学付属大阪仰星高等学校　一年　石黒 蓮

がんばる！交野ヶ原の商店街！

昔から人と人との交流の場だった商店街。交野ヶ原が元気になるためには商店街の力が不可欠です。このコーナーでは交野ヶ原の商店街を紹介していきます。

第一回は、枚方市・交野市それぞれの商業連盟・連合会の会長に商店街についての説明をいただきました。

枚方市商業連盟

は、1961年(昭和36年)に発足し、現在13の商店街(会)と2つの市場、55の百貨店・量販店の枚方市小売商業者700余店で構成し、「商業まつり」や「ひらかた街ゼミ」などの商業活動を展開しています。

商業をめぐる現況は大変きびしいものがありますが、市民・消費者にとって、地域の中でなくてはならに一番のお店、市場、商店街を目指して、商売繁盛はもとより、コミュニティや諸団体と連携して、地域の課題に取り組み、地域資源・歴史資源を生かしたにぎわい活性化のため尽力しております。

枚方市内の交野ヶ原には、たくさんの遺産、史跡、伝説などが残されておりますので、天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクトの取り組みに、各地域のお店、商店街、そして商業連盟も協力して参ります。共に頑張りましょう。

枚方市商業連盟
理事長　坂本　一彦

交野市商業連合会

は、交野市内の商店の繁栄と商業者の地位の向上を推進するとともに、会員相互の密接な交流を行う事を目的に発足されました。

星田駅前商店会、交野駅前商店会、交野中央商店会、郡津商工会、郡津駅前商店会を中心に交野市内の商業者にて組織されています。交野市の商業を活性化させるための事業や行政と連携した様々なイベントを開催しております。

6月24日(日)～7月1日(日)にかけて、交野市内の商店を巡り歩き、今までに行った事がないお店に行ってみたり、いろんなお店で食べ歩きをする、第3回ショーレンバルを開催致しますので、皆様もぜひご参加ください。

交野市商業連合会
会長　髙木　次郎